梵鐘

梵鐘は、建長寺が創建された 2 年後の 1255 年に鑄造されました。これは寺で最も古いものの 1 つで、国宝に指定されています。建長寺の初代住職である蘭溪道隆（1213-1278）による銘文が刻まれています。その銘文の中で、道隆は自身のことを「建長禅寺」の住職と呼んでおり、このことからこの鐘が作られた時点でこの寺は禅宗の寺であったことがわかります。

この高さ 2.1 メートル、重さ 2.7 トンの鐘は、13 世紀で最も有名な鑄物師だった物部重光によって作られました。鐘は、14 世紀と 15 世紀に建長寺のほとんどを焼き尽くした火事でも破壊されることがありませんでした。第 2 次世界大戦中も、この梵鐘はその歴史的背景のおかげで、政府によって原料として融かすために接收される事態を免れました。日本では、接收という運命を免れた梵鐘はほとんどありません。

建長寺のその他の建造物の屋根は瓦葺きですが、鐘楼は伝統的な藁葺き屋根のままです。梵鐘は古いものですが、今でも当初の目的である時報として使われています。この鐘は毎日、午後 5 時と 6 時の間に鳴らされます（時間は季節によります）。また、特別な機会にも用いられます。